

令和3年度 東三国中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

大阪府教育委員会では、保護者や地域の皆様に説明責任を果たすことが重要であると考え、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、学校が各調査の結果や各調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、各調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにし、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

1 「全国学力・学習状況調査」の調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2-1 「中学生チャレンジテスト」の調査の目的

- (1) 大阪府教育委員会が、府内における生徒の学力を把握・分析することにより、大阪の生徒課題の改善に向けた教育施策及び教育の成果と課題を検証し、その改善を図る。加えて、調査結果を活用し、大阪府公立高等学校入学選抜における評定の公平性の担保に資する資料を作成し、市町村教育委員会及び学校に提供する。
- (2) 市町村教育委員会や学校が、府内全体の状況との関係において、生徒の課題改善に向けた教育施策及び教育の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、学力向上のためのPDCAサイクルを確立する。
- (3) 学校が、生徒の学力を把握し、生徒への教育指導の改善を図る。
- (4) 生徒一人ひとりが、自らの学習到達状況を正しく理解することにより、自らの学力に目標を持ち、また、その向上への意欲を高める。

2-2 「大阪市版チャレンジテストplus」の調査の目的

- (1) 生徒及び保護者が、学習理解度及び学習状況等を知り、目標をもって主体的に学習に取り組めるようにする。
- (2) 学校が生徒一人ひとりの学力を的確に把握し、学習指導の改善及び進路指導に活用する。
- (3) 学びの連続性を確立する観点から、客観的・経年的なデータを把握、分析し、効果的な指導方法や課題を「見える化」し、その改善に役立てる。

3 「大阪市英語力調査（GTEC）」の調査の目的

- (1) グローバル社会において活躍し貢献できる人材の育成をめざし、生徒の英語力の充実・向上を図るため、本市教育振興基本計画に基づき、生徒に求められる英語力や学習の習熟過程等を把握・検証する。
- (2) 生徒が自らの英語力を的確に把握するとともに、生徒の英語力の実態を分析することにより、各学校における学習指導の充実や改善、工夫に役立てる。

4 「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」の調査の目的

- (1) 子供の体力・運動能力等の状況に鑑み、国が全国的な子供の体力・運動能力の状況を把握・分析することにより、子供の体力・運動能力の向上に係る施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 各教育委員会、各国公私立学校が全国的な状況との関係において自らの子供の体力・運動能力の向上に係る施策の成果と課題を把握し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、子供の体力・運動能力の向上に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- (3) 各国公私立学校が各児童生徒の体力・運動能力や運動習慣、生活習慣、食習慣等を把握し、学校における体育・健康等に関する指導などの改善に役立てる。

令和3年度 東三国中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

1 全国学力・学習状況調査

学年		生徒数 (人)	平均正答率(%)		平均無解答率(%)	
実施月日			国語	数学	国語	数学
3 年	学校	92	63	62	6.3	9.4
	大阪市	—	61	55	5.1	12.3
5月27日	全国	—	64.6	57.2	4.4	11.2

2 中学生チャレンジテスト

学年		生徒数 (人)	平均点(点)					平均無解答率(%)				
実施月日			国語	社会※	数学	理科※	英語	国語	社会※	数学	理科※	英語
3 年	学校	86	68.1	52.4	51.8	45.5	55.8	6.6	6.5	10.4	3.4	3.5
	大阪市	—	65.6	47.5	46.9	42.6	52.9	7.3	5.8	10.7	4.1	3.1
9月2日	大阪府	—	65.8	48.2	48.1	43.0	53.2	7.6	5.8	11.2	4.5	3.4
2 年	学校	62	60.9	55.7	59.7	51.5	61.1	8.6	4.8	7.2	4.5	3.5
	大阪市	—	57.5	51.2	59.0	53.8	57.8	12.1	6.4	9.4	5.5	5.5
1月13日	大阪府	—	58.8	52.2	60.1	53.1	58.5	11.9	6.4	9.4	6.3	5.6
1 年	学校	79	59.8	60.9	58.7	62.3	66.0	9.5	2.6	6.0	2.6	2.9
	大阪市	—	60.8	56.2	57.2	60.7	62.6	9.7	3.0	6.0	3.8	4.6
1月13日	大阪府	—	62.2	—	58.5	—	63.5	9.7	—	6.2	—	4.7

※ 1年生の社会・理科については、「大阪市版チャレンジテストplus」として実施

※ 1年生の理科は化学的領域を選択

※ 2年生の社会はA問題を選択 2年生の理科はB問題を選択

※ 3年生の理科はC問題を選択

3 大阪市英語力調査 (GTEC)

学年		生徒数 (人)	読むこと 【リーディング】	聞くこと 【リスニング】	書くこと 【ライティング】	話すこと 【スピーキング】
実施月日			(スコア)	(スコア)	(スコア)	(スコア)
3 年	学校	88	108.2	122.1	155.7	101.5
10月22日	大阪市	—	100.9	108.0	140.3	93.0

4 全国体力・運動能力、運動習慣等調査

学年	生徒数 (人)	握力	上体 起こし	長座 体前屈	反復 横とび	20m シャット ルラン	持久走 1500m	50m走	立ち 幅とび	ハンドボール 投げ	体力 合計点
	70	(kg)	(数)	(cm)	(点)	(回)	(秒)	(秒)	(cm)	(m)	(点)
2 年 男 子	学校	30.24	26.12	46.54	54.05	85.00	—	7.89	204.17	20.24	44.03
	大阪市	28.90	26.27	42.12	51.88	78.32	—	8.08	195.40	20.03	40.71
	全 国	28.80	25.99	43.67	51.19	79.88	—	8.01	196.36	20.31	41.18
2 年 女 子	学校	25.03	22.14	50.72	45.10	50.21	—	8.81	172.62	12.66	49.97
	大阪市	23.42	22.44	44.71	46.94	53.61	—	9.01	167.76	12.62	48.06
	全 国	23.43	22.32	46.20	46.25	54.24	—	8.88	168.15	12.72	48.56

令和3年度 東三国中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見てきた成果・課題と今後の取組について—

調査結果から

【成果と課題】

○全国学力・学習状況調査結果

＜国語＞平均正答率では全国平均に及ばなかったが、大阪市平均を上回った。各領域別では、「書くこと」と「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」にやや課題があるものの、「話すこと・聞くこと」と「読むこと」においては全国平均との差はわずかであり、一定の成果が見られた。

＜数学＞平均正答率で全国平均を約5ポイント上回り、領域別に見ても全ての領域で全国平均を上回った。また平均無回答率も全国平均と比較して約2ポイント低く、十分な成果が見られた。

○中学生チャレンジテスト(3年生)

5教科全てにおいて大阪府平均を上回った。各教科の領域別に見ても、ほぼ全ての領域で府の正答率を上回り、十分な成果が見られた。ただ、問題の種類別では選択式や短答式に比べて記述式の正答率が低くなってしまうため、記述式問題の正答率の向上が今後の課題である。

○中学生チャレンジテスト(1・2年生)・チャレンジテストplus(1年生)

2年生は数学で0.4ポイント、理科で1.6ポイント大阪府平均に比べて低かったものの、国語、社会、英語の3教科では府平均を上回った。無回答率はすべての教科において府平均より低くなっている。1年生はチャレンジテストの国語が府および市の平均より低かったものの、数学、英語、またチャレンジテストplusの社会、理科ではそれぞれ府や市の平均を上回った。また無回答率もすべての教科で府や市の平均より低くなっている。1・2年生ともに今後まだまだ向上の余地があると思われるが、やはり記述式の問題の正答率の向上が課題である。

○大阪市英語力調査(GTEC)

「読む」、「聞く」、「書く」、「話す」の4技能すべてにおいて市平均を上回る結果となり、英検3級以上に相当する英語力をもつ生徒の割合も55.8%となった。

○全国体力・運動能力、運動習慣調査

男子はハンドボール投げを除くその他7種目および体力合計点で全国平均を上回った。女子は握力、長座体前屈、50m走、立ち幅とびの4種目および体力合計点で全国平均を上回った。コロナ禍によりさまざまな制限を受ける中、体育の授業を中心に取組んできた成果が十分に表れている。また、校内アンケートの結果、「運動することは好きである」という項目に73%の生徒が肯定的に回答している。今後も運動を楽しみながら、体力・運動能力を向上させることを目指していきたい。

【今後に向けて】

5月に実施された全国学力・学習状況調査と比較して、9月実施の3年生チャレンジテストや大阪市英語力調査においては、各教科で日頃の学習の成果が十分に表れていると考えられる。1・2年生のチャレンジテストおよびチャレンジテストplusでは、まだ十分成果が表れていない面もあるが、生徒は落ち着いた状態で意欲的に学習に取り組んでいるため、今後の向上が期待できる。そのうえで、すべての学年において、記述式の問題の正答率を向上させることが引き続き今後の課題である。そのためにも、特に読解力の向上がポイントと捉えたい。「文章を読んで意味を正しく把握し理解する力」、アクティブ・ラーニングをはじめとする「主体的に学ぶ」ことにつながる読解力向上が全ての教科の得点を引き上げる。昨今、スマートフォンを活用したインターネットの利用時間が増加傾向にある一方、生徒一人ひとりの読書量は減少傾向にある。時間を工夫し、読書活動を充実させることで、読解力を支える語彙力の強化などに取り組んでいく必要がある。

全国体力・運動能力、運動習慣等調査の結果からもわかるように、コロナ禍であっても、十分な成果が表れている。今後もこの状態を維持できるように、継続して取り組んでいきたい。